

令和 2 年 6 月 22 日現在

機関番号：24403

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K11953

研究課題名(和文)教育指導者育成に向けたバウンダリーレスな臨床学習環境デザイン支援プログラムの開発

研究課題名(英文) Developing a Support Program for Boundaryless Clinical Learning Environment Design toward Fostering Educational Instructors

研究代表者

細田 泰子 (Hosoda, Yasuko)

大阪府立大学・看護学研究科・教授

研究者番号：00259194

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：教育指導者のバウンダリーレスな臨床学習環境デザイン支援プログラムを開発することを目的とした。米国のDedicated Education Unitを視察し、臨床学習環境や教育指導者の育成について検討した。教育指導者を対象とする全国調査を行い、臨床学習環境デザインに関する学習ニーズと学習方法、能力開発への取り組み、新人看護師や看護学生への学習支援、バウンダリーレスな経験等を多角的に明らかにした。これらの結果をもとに構成したプログラムを実施し、教育指導者間で情報共有・交換ができ、言語的伝達のスキルが高まることなどが示唆され、臨床学習環境のデザインに活用可能な創発的な学びが得られたことが確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、米国のDedicated Education Unitモデルに関するフィールドワークや教育指導者の臨床学習環境デザインに関する要因の調査の成果をもとに、臨床学習環境デザイン支援プログラムを構成した。プログラムの実施では、組織のバウンダリーを超えて教育指導者の創発的な学びを促すことを目指し、PDCAサイクルを回しながらプログラム評価を明らかにした。本プログラムは、教育指導者のバウンダリーレスな知の連結により、臨床学習環境に関するグローバルな視座をもたらすもので、施設単位で試みられている教育プログラムに創発的な教育モデルを提供し、臨床教育の人材育成及び看護職の質保証において意義がある。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to develop a support program for boundaryless clinical learning environment design for educational instructors. Clinical learning environments and methods of fostering educational instructors were examined by touring Dedicated Education Units in the US. A nationwide survey was conducted with educational instructors in Japan. The results of the survey highlighted the following aspects in a manner: learning needs and methods related to clinical learning environment design; work toward competency development; learning support for novice nurses and nursing students; and boundaryless experiences. A program was created and implemented based on these results. It was suggested that the program facilitated the sharing and exchange of information between educational instructors and improved their verbal communication skills. The findings of this study confirmed that emergent learning which can be adopted in clinical learning environment design was achieved through the program.

研究分野：看護教育学

キーワード：臨床学習環境 教育指導者 支援プログラム バウンダリーレス 人材育成 デザイン プログラム評価 国際情報交換(アメリカ合衆国)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

近年のわが国の保健医療をめぐる変化のなかで、看護学生(以下、学生)の実践能力向上のための教育体制として、教員及び実習指導者の指導能力の向上、役割分担と連携が示唆されている(厚生労働省, 2011)。また、学生が看護師学校養成所を卒業後、新人看護職員(以下、新人)として臨床実践能力を獲得するための研修体制を整備するうえで、新人研修を効果的に実施するには指導者の育成が重要であることが示唆されている(厚生労働省, 2014)。本邦の看護学教育を取り巻く状況は、米国のヘルスケア環境における人材育成のニーズと共通するものが見られる。高齢化と看護師不足に対処するため、Oregon Consortium for Nursing Education が設立され、教育機関のパートナーシップにもとづくカリキュラムが開発された(Gubrud & Schossler, 2009)。また、日本と米国における学生の実習経験の相違を検討し、国際的にも臨床教育の充実は課題であり、グローバルな連鎖が求められる(Hosoda et al., 2019)。

臨床学習環境に関する研究は、学習者の臨床経験の質を決定するための重要な要因であることが明らかにされている。先行研究では、学習過程の認知的な観点から構成した Clinical Learning Environment Diagnostic Inventory を開発し(Hosoda, 2006)、臨床学習環境に影響を及ぼす教育インフラストラクチャーを明らかにした(細田, 2007)。さらに、臨床学習環境とメタ認知、看護実践力、感情労働の関連を探索した(片山, 細田, 2014)。また、教育指導者の育成プログラムに関する現状を把握し(池内ら, 2014)、ニーズ調査から得られた成果(土肥ら, 2015)をもとに構成した臨床学習環境デザイナー育成プログラムを試行し、その評価を明らかにした(細田ら, 2019)。

近年の学習環境論では、学習者は社会的相互作用を通じて理解を深めることが指摘され、組織の境界を超えたバウンダリーレス(Boundaryless)な広がりが求められている。学習環境デザインにおいて、Illich (1973)の思想から発した共愉的(Convivial)という言葉は、人々と道具と新しい共同体が結び合った社会の状態(美馬, 山内, 2005)を表し、共愉的学びの共同体のなかで紡ぎ出す知の連結が期待される。本研究では、教育指導者が所属組織のなかで培ってきたノウハウを発掘し、組織内外の教育指導者間の相互交流によりバウンダリーレスな知の連結の可能性に着眼し、日常の活動の場を超えて学び合うことを中心に位置づけた臨床学習環境デザイン支援プログラムを開発することで、教育指導者育成に創発的な教育モデルを提供できるのではないかと考えた。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、教育指導者育成に向けたバウンダリーレスな臨床学習環境デザイン支援プログラムを開発することである。そのため、国内外の教育指導者の研修の視察及び文献検討により学習環境や教育方法を把握し、教育指導者の臨床学習環境デザインに関する諸要因を明らかにする。これらの結果を踏まえ、グローバルな視座から教育指導者育成に向けたバウンダリーレスな臨床学習環境デザイン支援プログラムを構成し、計画(Plan)、実施・運用(Do)、点検・是正(Check)、見直し(Action)の PDCA サイクルを検討する。その検討にもとづき、教育指導者を対象に臨床学習環境デザイン支援プログラムを実施し、その効果を評価する。

### 3. 研究の方法

#### (1) 国内外の教育指導者の研修の視察及び文献検討

教育指導者の育成に関する文献検討を行った。米国オレゴン州の医療機関や教育機関を訪れ、先駆的な臨床看護教育モデルである Dedicated Education Unit (DEU)の視察を行った。DEU の導入に携わる担当者及び医療機関の関係者から説明を受け、意見交換を行った。国内では医療機関や教育機関の教育研修及び専任教員養成講習会や実習指導者講習会に携わり、情報交換を行った。

#### (2) 教育指導者の臨床学習環境デザインに関する調査

全国の一般病床数 200 床以上の病院から無作為抽出し、看護管理責任者に調査への協力を文書で依頼した。各施設で新人や学生の教育指導を行う看護職者 5~20 名程度を選定してもらい、協力が得られた 101 施設の教育指導者 1,153 名を対象に郵送法による無記名自記式質問紙調査を実施した。調査内容は、学習支援、学習環境デザインの学習ニーズと学習方法、臨床学習環境デザインの能力開発、職場における他者からの支援、経験学習、バウンダリーレスな学習経験、看護コンピテンシー、臨床学習環境、属性とした。量的データは統計学的処理を行い、質的データは質的記述的に分析した。本研究は、所属機関の研究倫理委員会の承認を得て実施した。

#### (3) 臨床学習環境デザイン支援プログラムの構成と実施及び評価

先行研究の結果をもとに、臨床学習環境デザイン支援プログラムを構成した。プログラムの実施と評価では、介入群と対照群における事前・事後テストの準実験研究デザインを用いた。便宜的に抽出した近畿圏の医療機関の看護管理責任者に依頼し、研究協力が得られた 23 施設に所属する教育指導者 59 名から参加の同意を得た。事前調査の結果から対象者を介入群 30 名と対照群 29 名に振り分けた。米国から臨床教育を専門とする講師を招へいし、両群に臨床教育ストラテジーセミナーを行い、セミナー終了後、介入群に臨床学習環境デザインワークショップを行った。プログラムの実施前、終了直後、終了 2 ヶ月後に質問紙調査を行った。調査内容は、協同作業認識、コミュニケーション、学習支援、経験学習、自己効力感、メタ認知、臨床学習環境、属性(実施前のみ)、プログラム評価(終了直後と終了 2 ヶ月後)とした。量的データは統計学的に分析し、自由記述は質的に分析した。本研究は、所属機関の研究倫理委員会の承認を得て実施した。

#### 4. 研究成果

##### (1) 米国における DEU モデルに関するフィールドワーク

2016年8月に米国オレゴン州における DEU 関連施設として、Oregon Health & Science University (OHSU)、Portland Providence Medical Center、Veteran Administration Medical Center を視察した。視察の結果として、DEU の基盤となる概念、DEU における基本的な仕組みと役割、OHSU の従来の実習と DEU、Clinical Instructor (CI) の教育、各病院における DEU の違いを示した(富田ら, 2017)。

##### DEU における基本的な仕組みと役割

DEU では、大学と病院のパートナーシップにもとづき、病棟の看護師が研修を受けた後、CI として学生を指導する。このモデルでは、CI、看護管理者、教員が協働的な関係のもと、実践と理論を結びつけ、学生の臨床判断を発達させるように支援する。CI が継続して実習を担当し、学生は CI の勤務開始から終了まで一緒に行動し、臨床で行う行為を経験する。

##### OHSU の従来の実習と DEU

OHSU の従来の実習では、学年が上がるとプリセプター制度に移行していくが、プリセプターが不在の場合は他の看護師が学生を指導するのに対し、DEU では実習期間と CI の勤務が調整されているため、CI による一貫した指導を行うことができる。従来の実習と DEU の違いは、DEU が大学と病院とのパートナーシップにもとづいた臨床学習環境を整える構造を確立していることである。CI は、大学が提供する研修を受けているため、学生指導に必要な内容を理解したうえで学生と関わっている。従来の実習では必要に応じて病棟のオリエンテーションが行われていたが、DEU では実習の初日に看護管理者よりオリエンテーションが行われ、学生は病棟全体を理解して実習に臨むことができる。

##### CI の教育

DEU の看護師は大学が提供するプログラムを受講し、CI の役割を担う。OHSU の研修は 1 回 4 時間のコースで、カリキュラムや実習コース及び指導方法などを学び、ロールプレイを行いながら具体的に検討する。CI と教員の役割の違いを理解することも研修に含まれている。

##### (2) 教育指導者の臨床学習環境デザインに関する要因の検討

調査票は、664 名(回収率 57.6%)から回答を得られ、有効回答数は 621 名(有効回答率 53.9%)であった。平均年齢は 40.9 (SD=7.9) 歳、看護職の経験年数は 18.0 (SD=7.8) 年であった。

##### 教育指導者が行う新人と学生への学習支援の共通性と差異

新人指導経験者は 612 名、学生指導経験者は 550 名、新人と学生両方の指導経験者は 541 名であった。学習支援に共通する構成要素の検討では、新人指導経験者の探索的因子分析を実施し、<実践支援> <思考支援> <精神支援> の 3 因子 15 項目が抽出された。新人と学生への学習支援について構成要素の共通性を検討するため、探索的因子分析で抽出された 3 因子を潜在変数とし、2 次因子を《学習支援》とするモデルを設定し、新人指導経験者及び学生指導経験者の確認的因子分析を行った結果、適合度指標は許容水準を示し、内的整合性が確認された。また、新人と学生への学習支援の差異を確認するため、<実践支援> <思考支援> <精神支援> について対応ある *t* 検定を実施した結果、3 因子ともに学生に比べて新人への学習支援の方が有意に高かったことから、教育指導者は新人と学生のそれぞれが学習できるレベルを判断し、学習環境や学習状況に応じた支援をしていると考えられた(長野ら, 2019)。

##### 学習環境デザインに関する学習ニーズと学習支援の関連

教育指導者の新人への指導経験年数は 6.8 (SD=6.4) 年、学生への指導経験年数は 6.5 (SD=6.4) 年であった。学習環境デザインの学習ニーズの確認的因子分析の結果、道具デザイン、組織デザイン、活動デザインの 3 因子構造であることが確認された。新人指導経験者と学生指導経験者の学習支援の得点を四分位数にて群分けを行い、低得点群と高得点群による学習ニーズ得点との比較を Mann-Whitney の U 検定で行った。その結果、新人指導経験者と学生指導経験者ともに道具デザイン、組織デザイン、活動デザインにおいて、学習支援における高得点群の学習ニーズが低得点群より有意に高いことが示された。学習支援が高得点群にある指導者は、新人や学生への指導をより効率的・効果的に実践するために学習ニーズが高いことが推察された。

##### 学習環境デザインに関する学習方法と個人背景の関連

学習環境デザインの学習方法と個人背景について  $\chi^2$  検定を用いて検討した。【看護教育制度の構造】では、看護職の経験年数 [19 年以上] が [18 年以下] に比べて「専門家から学ぶ」と回答した割合が有意に多かった。【人間関係の形成】では、[18 年以下] が [19 年以上] に比べて「それ以外の方法で学ぶ」と回答した割合が有意に多かった。【OJT のあり方】では、学生への指導経験年数 [5 年以下] が [6 年以上] に比べて「専門家から学ぶ」と回答した割合が有意に多かった。【人間関係の形成】では、新人への指導経験年数 [5 年以下] が [6 年以上] に比べて「それ以外の方法で学ぶ」と回答した割合が有意に多かった。【文献クリティーク】では新人への指導経験年数 [6 年以上] が [5 年以下] に比べて「専門家から学ぶ」と回答した割合が有意に多かった。【OJT のあり方】と【ネットワーク作り】では、[職位を有する者] が [スタッフ] に比べて「それ以外の方法で学ぶ」と回答した割合が有意に多かった。【学習理論の活用】では、[職位を有する者] が [スタッフ] に比べて「専門家から学ぶ」と回答した割合が有意に多かった。学習方法と関連がある個人背景は、看護職の経験年数、新人及び学生への指導経験年数、職位であることが示唆された。

## 教育指導者の指導経験年数と経験学習との関連

新人と学生への指導経験年数を各々[1~4年][5~10年][11年以上]に分け、経験学習(具体的経験、内省的観察、抽象的概念化、能動的実験)の一元配置分散分析と多重比較を行った結果、経験学習全体ではどちらの指導経験者も有意差を認め、[11年以上]群が[1~4年]群及び[5~10年]群より高かった。学生指導経験者は「具体的経験」「内省的観察」「能動的実験」で有意差があり、[11年以上]群が[1~4年]群より高かった。学生指導経験者における「抽象的概念化」には有意差が検出されなかった。新人指導経験者は経験学習のすべての下位尺度で有意差があり、[11年以上]群が[1~4年]群より高かった。さらに「抽象的概念化」と「能動的実験」では、[11年以上]群が[5~10年]群より高かった。教育指導者が学生や新人への指導のどちらにおいても、年数の経過によって経験から学ぶ意識や行動が増えると考えられる。

## 臨床学習環境デザインに関わる能力開発への取り組み

教育指導者自身の臨床学習環境づくりに関わる能力開発のために取り組んでいることについて自由記述に回答を得られた203名を分析対象とした。回答文を単一の意味内容のまとまりごとに区切り338の記録単位として抽出し、回答文に当てはまる記録単位を121コードとした。各コードの意味内容の類似性に従い分類を繰り返し15サブカテゴリー、5カテゴリー【学習機会の活用】【個人的な学習活動】【人的資源の活用】【知識やスキルの研鑽】【情報の探索と収集】が抽出された。教育指導者は個人学習や周囲の人と連携することにより情報を得る取り組みを行っており、知識やスキルを向上させるために主体的な学習を続けていることが明らかとなった。

## 経験学習とコンピテンシーが臨床学習環境に及ぼす影響

学生の臨床学習環境、経験学習、コンピテンシーに回答した462名を分析対象とした。「経験学習」「コンピテンシー」「臨床学習環境」を潜在変数とし、「経験学習」と「コンピテンシー」との間に共分散を仮定し、両者がそれぞれ「臨床学習環境」に影響を及ぼす多重指標モデルを設定し分析を行った結果、適合度指標はGFI=.922、AGFI=.895、CFI=.958、RMSEA=.067であった。パス係数はすべて有意で、「経験学習」と「コンピテンシー」の相関係数は.49であった。「経験学習」及び「コンピテンシー」から「臨床学習環境」への標準化係数はそれぞれ.22、.26を示し、重相関係数の平方は.17であった。教育指導者の経験学習とコンピテンシーは、学生の臨床学習環境に影響を与えることが示唆されたが、説明力はあまり高くないため、他の関連要因を探索する必要があると考えられる。

## 職場における他者からの支援と経験学習が臨床学習環境に及ぼす影響

学生の臨床学習環境、経験学習、他者から受けている支援に回答した416名を分析対象とした。最も関わりを大切にしている他者は、「部下・後輩」134名(32.2%)が最多で、次いで「同僚・同期」120名(28.8%)であった。最も関わりを大切にしている他者において、<業務支援><内省支援><精神支援>を一元配置分散分析と多重比較を用いて比較した結果、いずれも「上司」「上位者・先輩」「同僚・同期」から受けている支援は「部下・後輩」より有意に高かった。さらに<精神支援>では、「同僚・同期」から受けている支援は「上司」より有意に高かった。職場における他者から受けている支援と経験学習が臨床学習環境に影響を与えるという仮説に基づき、「他者から受けている支援」「経験学習」「臨床学習環境」を潜在変数とし、「他者から受けている支援」と「経験学習」との間に共分散を仮定し、両者がそれぞれ「臨床学習環境」に影響を及ぼす多重指標モデルを設定した。適合度指標はGFI=.957、AGFI=.934、CFI=.969、RMSEA=.053であった。パス係数はすべて有意で、「他者から受けている支援」と「経験学習」の相関係数は.12であった。「他者から受けている支援」及び「経験学習」から「臨床学習環境」への標準化係数はそれぞれ.14、.35を示し、重相関係数の平方は.15であった。教育指導者の「他者から受けている支援」と「経験学習」は、「臨床学習環境」に影響を与えることが示されたが、「臨床学習環境」への寄与率は低いいため、他の関連要因を探索する必要があると考えられる。

## 教育指導者のバウンダリーレスな経験の効果と課題

教育指導者のバウンダリーレスな経験を検討し、組織間活動、教育活動、施設内学習、施設外学習が見出された。組織間活動における効果には、25コードから【自己の問題解決】【自己の関心拡大】【施設内の課題検討】【実践への適用】【他施設とのネットワーク】の5カテゴリーが抽出され、課題には、19コードから《自己革新》《情報の共有》《教育システムの形成》《自施設の改善》《家族への関わり》《他職種との連携》の6カテゴリーが抽出された。教育指導者の組織間における多様な活動経験は、自己の問題解決や関心拡大の糸口となり、自己成長につながると考える。その学びが自施設の課題への取り組みや実践に結びつき、さらに他施設とのつながりをもたらすことが明らかになった。教育指導者は、協働的なネットワークづくりに関する種々の課題を持つこと示唆された。また、教育活動における効果として、37コードから【学習者の特徴の把握】【学習者の知識の向上】【自己の専門知識の促進】【教育スキルの向上】【自己の省察】【組織改善への適用】【施設内の協調】【他施設との連携】の8カテゴリーが抽出された。また、教育活動における課題として、36コードから《学習者の理解》《研修へのニーズ》《情報の共有》《教育方法の改善》《教育の企画調整》《教育体制の整備》《スタッフの教育》の7カテゴリーが抽出された。教育活動におけるバウンダリーレスな経験は、新人や学生の特徴を把握し、知識の向上に関わるため、教育指導者自身の専門知識や教育スキルを高めつつ省察する姿勢をもち、組織改善や施設内外のつながりをもたらすことが明らかになった。さらに、教育指導者はインストラクショナルデザインに関する多角的な課題をもつことが示唆された。

### (3) 教育指導者の臨床学習環境デザイン支援プログラムの評価

研究参加と調査への回答が得られた介入群 22 名、対照群 23 名を分析対象とした。

#### 臨床学習環境デザイン支援プログラムの効果

両群間の比較を  $t$  検定または Mann-Whitney の  $U$  検定で行い、ベースラインと終了直後及び終了 2 ヶ月後の比較を対応のある  $t$  検定または Wilcoxon の符号付き順位検定で行った。群間比較では、コミュニケーションスキルの「いうスキル」の終了直後とベースラインの得点差は介入群の方が有意に高かった。経時比較において、介入群は「いうスキル」がベースラインより終了直後及び終了 2 ヶ月後で有意に高く、対照群は「よむスキル」「書くスキル」「するスキル」で有意差を認めなかった。「学生へのメタ認知促進支援」では、両群とも終了直後がベースラインより有意に高く、「新人へのメタ認知促進支援」では、介入群は終了直後、対照群は終了 2 ヶ月後がベースラインより有意に高かった。「感覚的臨床学習環境」では、両群とも終了 2 ヶ月後がベースラインより有意に高く、対照群は終了直後でも有意差が認められた。臨床教育ストラテジーセミナーによりコミュニケーションスキル、学習者へのメタ認知促進支援、感覚的臨床学習環境が高まる可能性を認め、ワークショップにより言語的伝達のスキルが高まることが示唆された。

#### 臨床学習環境デザイン支援プログラムの運用に関する評価

プログラムの運用について、記述統計、Mann-Whitney の  $U$  検定、質的分析を行った。プログラムの内容に関する 6 項目のうち「そう思う」と回答した割合がもっとも高かった項目は、実験群では「参加者間で情報共有・情報交換ができた」が終了直後 63.6%、2 ヶ月後 40.9% を示し、対照群では「自身の指導方法を振り返る機会となった」が終了直後 56.5%、2 ヶ月後 26.1% であった。また、「参加者間で情報共有・情報交換ができた」では、終了直後と 2 ヶ月後で実験群が有意に高かった。満足度は、「とても満足」または「やや満足」と回答した割合が実験群では終了直後 100%、2 ヶ月後 86.4%、対照群では終了直後 87.0%、2 ヶ月後 65.2% であり、両群間に有意差はなかった。受講時間は、実験群では「ちょうど良い」が終了直後 77.3%、2 ヶ月後 81.8%、次いで「やや長い」が終了直後、2 ヶ月後ともに 13.6%、対照群では「ちょうど良い」が終了直後 60.9%、2 ヶ月後 73.9%、次いで「やや短い」が終了直後 30.4%、2 ヶ月後 13.0% を示し、終了直後は両群間の有意差が認められた。本プログラムの今後の教育活動への活用は、両群間で有意差はなかったが、具体的な活用内容に違いがみられた。両群にみられた[リフレクションの仕方][学生や新人への関わり方][コンセプトにもとづく学習活動][ルーブリックを用いた評価][コーチングの方法][教育の視点]に加え、実験群では[他施設との情報共有][質問方法][シミュレーション教育]が抽出された。ワークショップを取り入れた実験群は、参加者間の情報共有・情報交換ができたことが確認され、セミナーから得られた内容に加えて現場の教育に活用可能な創発的な学びが得られたと考える。教育指導者はバウンダリーレスな学びを通して、臨床学習環境のデザインを思考していることが示唆された。

#### 引用文献

- 土肥美子, 細田泰子, 中橋苗代, 中岡亜希子, 池内香織(2015) 臨床における教育指導者の学習環境デザインに関する学習ニーズとその学習方法の検討. 大阪府立大学看護学部紀要, 21(1), 1-11.
- Gubrud, P., & Schoessler, M. (2009) OCNE Clinical Education Model. In N. Ard, & T. M. Theres (Eds.), *Clinical Nursing Education: Current Reflections*, 39-57, National League for Nursing, New York.
- Hosoda, Y. (2006) Development and testing of Clinical Learning Environment Diagnostic Inventory for baccalaureate nursing students. *Journal of Advanced Nursing*, 56(5), 480-490.
- 細田泰子(2007) 看護学士課程の学生のメタ認知的な臨床学習環境に影響を及ぼす教育インフラストラクチャーの検討. *日本看護科学会誌*, 27(4), 33-41.
- 細田泰子, 中岡亜希子, 中橋苗代, 土肥美子, 池内香織(2019) 臨床学習環境デザイナー育成プログラムの実施と評価. *日本医学看護学教育学会誌*, 28(2), 17-28.
- Hosoda, Y., Negishi, M., & Gubrud-Howe, P. (2019) Differences in clinical practicum experience between United States and Japanese baccalaureate nursing students. *Osaka Prefecture University Journal of Nursing*, 25(1), 21-31.
- 池内香織, 細田泰子, 中岡亜希子, 中橋苗代(2014) 新卒看護職者や看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関する取り組みとニーズ. 大阪府立大学看護学部紀要, 20(1), 1-8.
- Illich, I. (1973) *Tools for Conviviality*. Marion Boyars, London.
- 片山由加里, 細田泰子(2014) 実習指導看護師と学生の看護実践力に関連する感情労働. *日本医学看護学教育学会誌*, 23(1), 1-6.
- 厚生労働省(2011) 看護教育の内容と方法に関する検討会報告書.  
<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001316y-att/2r985200000131bh.pdf> (参照 2020. 6.15)
- 厚生労働省(2014) 新人看護職員研修ガイドライン【改訂版】.  
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000049578.html> (参照 2020. 6.15)
- 美馬のゆり, 山内祐平 (2005) 「未来の学び」をデザインする 空間・活動・共同体. 東京大学出版会, 東京.
- 長野弥生, 細田泰子, 片山由加里, 土肥美子, 北島洋子, 根岸まゆみ(2019) 教育指導者が行う新人看護師と看護学生への学習支援の共通性と差異. 大阪府立大学看護学雑誌, 25(1), 33-41.
- 富田亮三, 細田泰子, 根岸まゆみ, 片山由加里, 土肥美子(2017) 米国における Dedicated Education Unit モデルに関するフィールドワーク. 大阪府立大学看護学雑誌, 23(1), 67-74.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 長野弥生, 細田泰子, 片山由加里, 土肥美子, 北島洋子, 根岸まゆみ	4. 巻 25(1)
2. 論文標題 教育指導者が行う新人看護師と看護学生への学習支援の共通性と差異	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪府立大学看護学雑誌	6. 最初と最後の頁 33-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24729/00005645	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Yasuko Hosoda	4. 巻 -
2. 論文標題 In search of the ideal clinical learning environment	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Reflections on Nursing Leadership	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 細田泰子, 根岸まゆみ, キャシー・ラサター	4. 巻 59(1)
2. 論文標題 ラサター臨床判断ルーブリック日本語版の作成	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 看護教育	6. 最初と最後の頁 40-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1663200902	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 細田泰子	4. 巻 58(5)
2. 論文標題 臨床判断モデルにもとづく学習方略と評価のデザイン	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 看護教育	6. 最初と最後の頁 360-366
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1663200742	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細田泰子	4. 巻 14(1)
2. 論文標題 メタ認知の支援を目的とした学習方略	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 看護人材育成	6. 最初と最後の頁 48-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富田亮三、細田泰子、根岸まゆみ、片山由加里、土肥美子	4. 巻 23(1)
2. 論文標題 米国におけるDedicated Education Unitモデルに関するフィールドワーク	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大阪府立大学看護学雑誌	6. 最初と最後の頁 67-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24729/00005659	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件(うち招待講演 0件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Yasuko Hosoda, Mayumi Negishi, Yoshiko Doi, Yukari Katayama, Yoko Kitajima, Yayoi Nagano
2. 発表標題 Effects of a clinical learning environment design support program for educational instructors
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yoshiko Doi, Yasuko Hosoda, Yayoi Nagano, Yukari Katayama, Yoko Kitajima, Mayumi Negishi
2. 発表標題 Relationship between learning methods and personal background of educational inistructors' design of a clinical learning environment
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 細田泰子, 根岸まゆみ, 長野弥生, 北島洋子, 片山由加里, 土肥美子
2. 発表標題 臨床学習環境デザイン支援プログラムの運用に関する評価
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshiko Doi, Yasuko Hosoda, Yayoi Nagano, Yukari Katayama, Yoko Kitajima, Mayumi Negishi
2. 発表標題 Relationship between educational instructors' learning needs in the learning environment design and learning support
3. 学会等名 Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing 45th Biennial Convention (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasuko Hosoda, Mayumi Negishi, Yoshiko Doi, Yayoi Nagano, Yukari Katayama, Yoko Kitajima
2. 発表標題 Effects of educational instructors' support from others and experiential learning on the clinical learning environment
3. 学会等名 Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing 45th Biennial Convention (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 片山由加里, 細田泰子, 長野弥生, 土肥美子, 北島洋子
2. 発表標題 学生や新人看護師の教育指導に携わる看護師の指導経験年数と経験学習の関連
3. 学会等名 日本看護研究学会第45回学術集会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 北島洋子, 細田泰子, 長野弥生, 片山由加里, 土肥美子, 根岸まゆみ
2. 発表標題 教育指導者の臨床学習環境デザインに関わる能力開発への取り組み
3. 学会等名 日本看護学教育学会第29回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasuko Hosoda, Yayoi Nagano, Yukari Katayama, Yoshiko Doi, Mayumi Negishi, Yoko Kitajima
2. 発表標題 Effects of experiential learning and nursing competency of educational instructors on the clinical learning environment
3. 学会等名 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長野弥生, 細田泰子, 片山由加里, 土肥美子, 北島洋子, 根岸まゆみ
2. 発表標題 教育指導者が行う新人看護師と看護学生への学習支援に共通する構成要素
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

研究概要 教育指導者育成に向けたバウンダリーレスな臨床学習環境デザイン支援プログラムの開発  
<http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/~hosoday/gaiyou/>

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	片山 由加里  (Katayama Yukari)  (10290222)	同志社女子大学・看護学部・准教授    (34311)	
研究分担者	土肥 美子  (Doi Yoshiko)  (10632747)	大阪医科大学・看護学部・講師    (34401)	
研究分担者	北島 洋子  (Kitajima Yoko)  (90582875)	奈良学園大学・保健医療学部・専任講師    (34604)	
研究分担者	根岸 まゆみ  (Negishi Mayumi)  (40816352)	静岡県立大学・看護学部・講師    (23803)	
研究協力者	長野 弥生  (Nagano Yayoi)		
研究協力者	富田 亮三  (Tomita Ryoza)		